

## 日本脳炎について

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。人から直接ではなく、ブタなどの体中で増えたウイルスが、コガタアカイエカなどの蚊によって媒介されます。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になることがあります。人から人への感染はありません。

国内での患者発生は、西日本地域が中心ですが、日本脳炎ウイルスは日本全体に分布しています。飼育されているブタでの流行は、毎年6月から10月頃まで続きますが、この間に、地域によっては、約80%以上のブタが感染しています。以前は、小児、学童に多く発生していましたが、予防接種の普及、環境の変化などで減少し、最近では高齢者を中心に患者が発生しています。

感染者のうち、100～1,000人に1人が脳炎等を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かせ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかった時の死亡率は20～40%ですが、神経の後遺症を残す人が多くいます。

## 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンについて

日本脳炎ウイルスをVero細胞(アフリカミドリザル腎臓由来株化細胞)で増殖させて、得られたウイルスを採取し、ホルマリンで不活化(感染原性をなくすこと)した後、精製し、安定剤を加え、凍結乾燥したワクチンです。

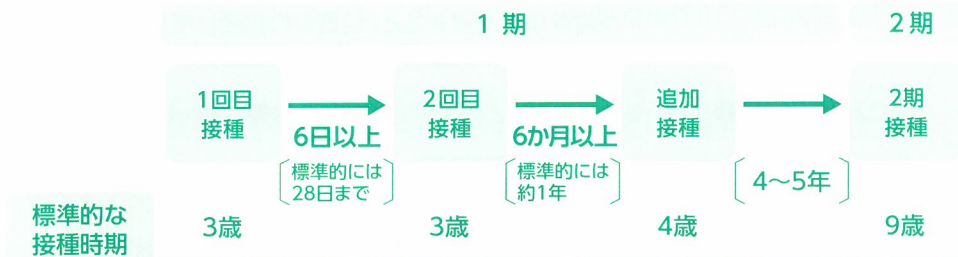
## 副反応

主な副反応としては、局所反応として紅斑、内出血、疼痛、腫脹、そう痒感など、全身の反応として、発熱、発疹、じんましん、頭痛、せきなどがあります。また、重大な副反応としては、極めてまれにショック、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)、けいれん、血小板減少性紫斑病、脳炎・脳症があらわれることがあります。

### 対象者及び接種スケジュールについて

1期	接種回数	接種対象者(対象年齢)
初回接種	2回	生後6か月以上 7歳6か月未満
追加接種	1回	

※接種対象年齢を過ぎると、公費での接種は受けられなくなります。



※1期で行う3回の接種で、基礎免疫をつけることが重要ですので、忘れずに接種を受けましょう。

※生後6か月以降3歳未満での接種を希望する場合は、予診票をお送りいたしますので、保健予防課まで御連絡ください。

※3歳未満の接種量は0.25ml、3歳以降の接種量は0.5mlです。

※実施協力医療機関一覧表に掲載している日本脳炎の実施協力医療機関は、3歳以上7歳半未満での接種が可能な医療機関です。生後6か月以降3歳未満での接種が可能なかどうかは、各医療機関にお問い合わせください。

※2回目以降の接種は、ワクチンを接種した日の翌日から起算してください。

### 接種時に持参するもの

- ① 日本脳炎予防接種予診票
- ② 母子健康手帳(接種歴を確認するとともに、予防接種を受けたことを記録します。)